特集 大森山動物園条例をつくる

今なぜ動物園条例をつくろうとしたのか？

秋田での動物園の歴史は、昭和 25 年に千秋公園につくられた児童動物園から始まる。

その後、昭和 48 年には豊かな自然に恵まれた大森山公園への移転し、施設の整備拡充や新たな動物導入、あるいはさまざまな活動を行って現在の大森山動物園に至っている。

これまでレクリエーションや癒しの場を提供し、あるいは動物の生態や命を学ぶ場として、さらには希少動物の保全への寄与など、さまざまな要請に対応した活動を模索し、実践してきた。しかし、大森山動物園の果たすべき役割、進むべき道をこれまで正式な形で明示されていなかった。開園から 30 年以上が経過し、動物園のあり方が全国的にも注目されている今、大森山動物園の設置理念を内外に明確に示すことで、その存在意義をさらに高め新たな飛躍をとげるために秋田市大森山動物園条例の制定をめざした。

本条例をつくるにあたり、市民といっしょになって考え、より多くの市民からの声も反映させようと２回のシンポジウムが開かれた。今回はその概要をご紹介する。

子どもシンポジウム

▲シンポジウムの様子

９月４日、大森山動物園の森ステージで、秋田市内の金足東、川尻、泉、河辺の各小学校と秋田西中学校から約 200 名が参加して、自然環境と動物園、楽しみとしての動物園、学校と動物園、地域と動物園、命を伝える動物園などといったテーマで、こうあって欲しい動物園の姿を各校の代表者に意見発表してもらった。会場にいた父兄や一般の入園者も参加して多いに盛り上がり、これからの動物園についてみんなといっしょに考えることができた貴重な時間であった。

子どもたちからは動物を調べたり、楽しく学べ、また体験できる動物園に、あるいは命について考える場であって欲しい、さらには総合的な博物館のような施設になって欲しいなどの子供の感性で捉えた動物園像を建設的な意見で描いてくれた。

出前授業

子どもシンポジウムに向けて、動物園の様々な役割について知ってもらおうと、上記５カ所の小・中学校で動物園職員による事前出前授業が行われた。

動物園は楽しむ場所だけではなく、学ぶ、動物や自然を守る、研究するなどの機能を持っていることを子どもたちは改めて知ったようで、大きな成果があった。また子どもたちのユニークな意見も聴けたことも大変有意義な出前授業であった。学校と動物園との新たな展開の一歩となった。

▲秋田市立河辺小学校での出前授業の様子